

・19/10/21 「名古屋城天守復元 60 周年祭」名古屋市民オンブズマン 赤羽一郎氏発言
(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

司会者：はい、ますます疑問が深まったと思いますが感想やご意見を。審議会の状況もね。こっちはこれでやってるんですが、審議会ってのは今どんな状況になっているのかよくわからないので。少し赤羽さんに解説をしてもらおうと嬉しいんですが。

ちょっと少し説明していただいて、今日はすいません、紹介書いてありましたねプログラムに、赤羽一郎さんが今日お見えになってますので、ちょっと少し今の状況を説明していただいてまた質問をさせていただきます。

赤羽：ご紹介いただきました赤羽と申します。こんなところで喋るつもりは毛頭なかったんですけど。

先ほど「古城」という歌をうたいましたけれども、実は名古屋城、私どもの石垣部会っていう特別史跡名古屋城跡全体整備検討委員会の中の石垣部会という長つたらしい部会に属しておりますけれども、その部会でやっぱり一番大事にすることは実は石垣なんですよね。やっぱり石垣っていうのはなぜかという、やっぱり名古屋城っていうのは皆さんも地図をご覧になったらおわかりになると思うんですけども、とにかくなんていいますか徳川家康が造ったお城として非常に合理的なお城、ある意味では戦国期を代表するお城なんですよね。

そういう城の中で家康が何を目指したということが一番よくわかるのが実は縄張りでありそんな縄張りをきっちり固めているのが石垣だということなんです。

これが私どもが言っている特別史跡名古屋城跡が持っている本質的な価値というふうに言ってますね、その点でいうと古城という歌の中では実は 4 番の「鑿あと残る石垣を静かに映す濠の水」。これがやっぱりそれが名古屋城の本質的な価値だと私どもは認識をしているんです。

それでさっき天守閣云々という話がありましたけれども、やっぱりそういうもちろん残っていれば、米軍の空襲で焼けずに残っていれば、たしかにやっぱり国宝であり、やっぱり建造物としても第一級の建物であったけれどもしれませんが、燃えてなくなりましたので、その点でいえばやはり名古屋城の持っている第一の価値はやっぱりあの家康がここに築いた意図を忠実に反映した縄張りであり、それを確保したものとした石垣であるというふうに思ってるんです。

でそのことを軸に私どもは名古屋市と何回も何回もやりとりをしていました。私どもはとにかく名古屋城というのは現在の大坂城、これは秀吉が造ったお城じゃなくてその後、大坂の合戦の後家康が作り直した巨大なお城である大坂城に次ぐ規模のお城なんです。石垣の石材の数も大坂城に次ぐくらい大きな質量ともに大きな石垣であるんです。

そういう石垣をとにかく守ることが一番重要なことであるということなので四つの事を

私ども言ってきたんですよね。

一つはやっぱり名古屋城のそういう石垣の現状をきっちり把握をして、どこに危ないところがあり、どこに草が繁茂し、どこに裏側に空洞ができたりなんかするという現状をきっちり把握しなさい。それを違う言葉でいうと「石垣カルテ」という私どもがお医者にかかってお医者さんが一生懸命書いている診断書みたいなものですね。そういう石垣カルテと云ったのをまず作りなさいということを第一に挙げています。

それから第二番目は、そうですね、そういう中で特に大事な中心的な本質的価値の中のさらに中心的な、天守の支えている石垣、これは孕みもあれば戦争の空襲で受けた熱でね、バラバラに亀裂が入ってるもの、その天守をささえてる石垣の現状をきっちり把握しなさい。

それから三つ目は、今、実は 2002 年から工事を始めてますちょうどあの本丸の東側に搦手っていう搦手馬出しという軍事上重要な空間があるんですけども、それを構成している石垣に修理をしてるんですね、2002 年からですからもう 10 何年、2004 年だったかな¹。もうはるか昔のことなんで。まだできてないんですよ。

これは国の補助金をもらってやってるんですけども。

もうもっと増額してもっとスピーディーにそれこそさっきスピード感の話が出てきておりましたけれど、スピーディーにやればもっと短期でできたものがまだ出来てきていない。で本丸の本丸囲んでいる内堀の中にそのとりはずした石垣の石がずっと並んでるんですよ。もうボロボロになってます上にかけていたシートなんかね。

これずいぶん石垣の方も、石もかなり劣化も劣化しているので、やっぱりそれを積み直すということについては、やはりまたそこから調査をしなきゃいけないということで、もうこれもすごい時間がかかるということで、とりあえず搦手の石垣を積み上げなさいということが第三番目の要請です。

実は石垣部会ができたのも、実は 2004 年の搦手の石垣の修理をある意味で指導するということができたのが石垣部会なんですよね。

そういうことで三番目はそういう現在まだ現在進行形でもう 10 何年もかけているのに出来上がっていない搦手の石垣の修理を早くしなさいというのが三つめ。四つ目は名古屋城というのは石垣の修理だとか、あるいは二の丸庭園の今整備、これからはひょっとしたら今の体育館が名城公園に移るかもしれない。その跡をどうするのかということでの事前調査とかですね。そういういわゆる発掘調査というそういう仕事がすごく目白押しなんですよね。

にもかかわらず、あそこの考古学の学芸員の数が非常に少ない。

特にあの考古学の学芸員が非常に少ない。でも今言いました搦手の石垣の修理だとか、それから、それこそ木造天守の復元あるいはその解体のために本丸の天守閣あたりの調査しなきゃいかんっていうのに、もう就職して名古屋市に入ってもうまだ 2 年もたたない子

¹ 2004 年から搦手馬出修復工事が行われている。

が主任でやらされているんですよ、女の子なんですけど。

これはね本当に、他の天守から他のお城からみたら考えたら考えられないことなんです。

それを平気で名古屋市はやってるわけですよ。

すでに石垣を担当していた職員は 2 名も退職してます。いろんな事情が家庭の事情がありましたけども、退職している。それを食いとめるだけの力が名古屋市にはないんですよ。そういうこともあって、とにかく主体的に名古屋市が国宝です。国の重要なお宝ですのでやはり国民から負託されている保存管理をやっぴりやる上ではもっと名古屋市しっかりしなさい。そのためには、調査研究機能というのを充実させなさいというのが四つ目の私どもの主張なんです。

これはようやく今年から調査研究センターというものができましたけれども、まだまだ中身は全く変わりません。人数合わせにすぎません。

名古屋市の文化財保護室の学芸員を兼任させてたりね嘱託を置いたりとかっていう、そういうことで本当に戦力にならないそういう陣容だということがわかります。

そういうことで、四つの私どもがずっと名古屋市と付き合っ、名古屋城と付き合っ、やっていく中で主張してきていること、これが実は全く名古屋市としてまだ進歩してない進んでないのです。だから、いつまでたってもあの本丸の名古屋城の天守復元のそれから、その前に解体をと言っ、これも禁じ手なんです。文化庁は逆にへんてこな禁じ手を出したもんだから余計おかしくなってるんですけども、そういうところからどんどんおかしく、要するに僕は復元計画が「漂流している」というふうに表現をしております。

そういうことですが、そのようなことを石垣部会の中でいろいろ話してます。

最近の状況では皆さんはご存知かもしれませんが、国には文化庁という文化財保護をもつばらやるお役所がありまして、その中の一応一番の力を持っているのが文化審議会という。これは 20 人くらいからなるメンバーですけど、そんな中に実はそれこそ文化審議会といっても、文化財もあれば文化芸術もあるんですよ。あとでちょっとお話しますが、愛知トリエンナーレを実は文化庁が主管しているということで、えらい問題になってますけども、そういうの文化審議会の 20 人ですけどもこれもいろんな分野の人がいるので、実は総会がありますけれども、ほとんどシャンシャンで終わる総会です。

実はその下に文化審議会文化財分科会というのがあります。よく新聞出てくる文化審議会というのは実はこの事なんです。

文化審議会というのはイコール文化審議会文化財分科会というそういう舌を噛みそうなやこしい会議がありますけれども、これには建築だとか考古学とか民俗だとかそういう専門の学者の方 5 名で構成をされているんですよ。

そういう 5 名でなる文化審議会文化財分科会がその下に専門委員会というのがありまして、さすがに 5 人で全部いろんなことを処理することができないので。

もう少したくさんの方がその調査研究に当たるということで、文化、何だ、文化審議会文化財部会それから調査委員会です。があっ、調査委員会にはだいたい 15 名ぐらいの専門

の方がいらっしゃる。その方がその中に特に考古学とかあるいは史跡担当の人が 5 人位やっぱりいるんですね。

現在、国でいろいろやっておりますけれどもだいたい文化審議会文化財分科会というのは年にこの重要な現状変更案件は 5 月と 10 月の 2 回しかやりません。

ついに最近、新聞お読みになった方いらっしゃるかもしれませんが先週の土曜日に実は新しく先ほど登録文化財が新たに登録されましたというのが新聞記事に出てました。

それはこの文化審議会文化財部会で答申がされてこれからいろいろな手続きを経て官報告示をされる、そういうことになりましたよということが新聞に出てるんですが、そういう重要な史跡の指定とか、あるいは重要な特に名古屋城跡みたいな特別城跡、特別史跡、名古屋城跡のような大きなしかも課題を抱えたそういう史跡の現状変更案件は 5 月と 10 月しか扱わないんですね。

それぐらい大変な仕事なので、その間先ほど言ったように、文化部会文化財部会あるいはその下の専門委員会が検討しながら、それを文化庁に報告し文化庁がよしこれならいいということで、文化審議会に答申をするわけです。

実はあの答申というのは諮問というのはほぼ答申を前提にした諮問なんですね。

ですから諮問するということは実はもう答申をなされるということをも前提にしてるんです。ところが名古屋市の名古屋城は現在はもちろん諮問もされていません、もちろんだから答申もされてないわけですよ。

よく継続審議という言葉が使われますけれども実はこれは継続審議でもないというそういう段階なんですね。

この前の 10 月の名古屋市議会でようやく文化庁と名古屋市とのやりとりというのがちょっと出てきたようですけどもこのようなことを言っているんですね。

文化審議会っていうのはまあ名古屋市の現状変更に対して文化審議会はいろんな注文をつける、指摘をしますけども。文化審議会の判断としては、文化審議会においてさらに確認をする、要する点がある、現状変更の申請書についてまだ確認を要する点があり、名古屋市に追加情報の提供を要請している、その内容を踏まえて引き続き調査を行うことが適当であると判断しましたというのが実は文化審議会の方向性なんですよ。

だからそこで継続審議もへったくれも何もないわけです。

さらに名古屋市から調査のデータ、状況をもらって、それから国として先ほどいった調査委員会でさらに検討調査して、それを文化審議会文化財保護部会に挙げるというそういうことなんです。

ですからその点ではまだまだ先ほどご説明ありましたように、本当にまだ第一歩にも進んでないっていう状況なんですよ。

で、最近ちょっと面白いのは、面白いと言ってはいけませんけれども、実は 6 月にさすがに石垣部会が抵抗勢力というふうに位置づけたみたいですが、ありゃ抵抗勢力だなど一番感じているのは名古屋市だと思うんですよ。名古屋市の局長クラスの人が「もう石垣部

会は全員首だ」はっきり言ってるですね、もう首である。

8月のあの石垣部会の際には「もう石垣部会っていうのはもう石垣だけのことをやってもらって、他のことについては埋蔵文化財部会という新しい部会を作ってそこでやってもらおう」とそういうことを提案してるんですね、もちろん私どもは石垣部会としてはそんなことは許されんという話をしておるんですけども、で「文化庁はどう言ってるんですか」と言ったら、文化庁も「埋蔵文化財部会なんていうのを作るのはまかりならん、石垣部会でずっと今までやってきているんだから、きちんと石垣部会の意見を頂きなさい」というふうに名古屋市の担当者は叱られて帰ってくるんですよ。

ですからね。ずいぶん私どもが、私どもというか裏には裏でいろんなことが動いていてもその例の河村市長が言ってるように楽観的にとらえる要素というのは全くないというのが現況です。

それからやっぱり最近つい最近の文化財文化審議会文化財部会というのが先ほど言いました10月の18日に開かれまして、もちろんその時には全く議案にはのっていません。先ほど新聞にでましたいろんな登録されましたとか指定されましたということだけが答申、諮問されて答申されたということです。

その中でやっぱり今大きな文化庁として課題を抱えているのはあいちトリエンナーレのことなんですね。

あいちトリエンナーレっていうこれもあの文化庁文化審議会に係わっている人がちょっと詳しいことは申し上げられませんが、話をするとやっぱりあれが非常に大きな文化庁にとって傷になっているというふうに、で名古屋城の問題についても当面やっぱりなんていいですかね、慎重に静観するという。で結論を急がないというそういうどうもスタンスにどうもたつたということです。これが例えば、これはさる官房長官が言った発言をです。ね。付度して文化庁の審議官のレベルで不交付を決めてしまったわけですよ。

で実はその後、僕は怒りに震えているんですけども芸術家である長官がそれを追認しているんですね、不交付をね。しかも外部委員も全く交付する時には外部委員の意見を聞いているんですけども、不交付にする時には全く外部委員の意見を聞いてないのは皆さんご承知の通りです。

そういう中で、いやこれでその今名古屋城の話を進展させたらこれ河村さんに点数をあげることになるわなということにもなる訳ですね。逆に言ったら河村市長の歴史認識と今の先ほど言った、さる官房長官の認識とが一致してるっていうことがあってそれに対して付度が行われているということが見え見えになってしまうわけなんですよ。

それはちょっと困るというふうに文化庁もさすが思ってると思うんですね。

それで、ちょっと名古屋城のことは今んとこちょっとしておこうではないかということだと思えます。

その点で言えば、こういう登録を求める会ということの活動というのがもっと勢いよくするのは今だと思うんですよ。やっぱりもっと、先ほど905億っていうようなお金の話も

そうですしそれから、文化庁のこういう動きもそうですけども、もっと市民の方に進んでそういった情報を提供していただいて、何とかその力になるようにしていただき、登録にするということもそうですし、新しい木造天守を造ることに待ったをかけるようなそれを市民の声として、大いに広げていただきたいというのが私からの希望です。長々喋りましたが、ありがとうございました。